

奈良市×大阪・関西万博連携シンポジウム 奈良会議2025 EVENT REPORT



2025年3月16日(日)に奈良市×大阪・関西万博連携シンポジウム「奈良会議2025」を開催いたしました。

「すでに存在する未来」をどうたぐりよせるのか。悠久の歴史を紡いできた奈良で、今まさに起こっている世界の変革について第一線で活躍されているゲストとともに様々な角度からディスカッションを行いました。

奈良市

**Old History,
New Discovery.**
NARA CITY

奈良市×大阪・関西万博連携シンポジウム

13:00-13:10 オープニング(会場:203-204)

13:10-15:00 オープニングセッション(会場:203-204)

『すでに存在する未来をどうたぐりよせるのか』

1,300年前に国家や文化の礎が築かれた奈良を舞台に、いま世界で起こっている大きな変化をスピーカーとともに新たに捉え直し、「すでに存在する未来」をたぐりよせるための奈良会議に通底する問いを探索します。



家入一真
株式会社CAMPFIRE
ファウンダー・会長



伊藤穰一
千葉工業大学 学長



松田法子
京都府立大学大学院
生命環境科学研究科 准教授



仲川げん
奈良市長



林篤志 モデレーター
株式会社paramita 共同代表 /
一般社団法人Next Commons Lab
ファウンダー

15:15-16:35 パネルディスカッション

あらかじめ設定された3つのテーマごとに分かれ、それぞれのテーマで探求を深めます。

テーマ①『新たな社会OS』 国家でもなく、従来型の民主主義でもない、自治の未来(会場:203-204)

人類は民主主義や資本主義などの仕組みを育んできました。しかし、急速に進歩するデジタル技術が人々のつながりや集団の在り方を変え、新たな可能性と課題を同時に生み出しています。こうした変化の最前線から、新しい自治と共同体の在り方を議論します。



家入一真
株式会社CAMPFIRE
ファウンダー・会長



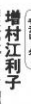
伊藤穰一
千葉工業大学 学長



仲川げん
奈良市長



林篤志
株式会社paramita 共同代表 /
一般社団法人Next Commons Lab
ファウンダー



増村弘子
一般社団法人Next Commons Lab
ファウンダー

テーマ②『経済・産業』 低成長日本における好循環経済のデザイン(会場:205)

大阪・関西万博が奈良の経済発展にとって大きなチャンスとなるとの期待が高まるなか、観光資源や地場産業、そして歴史文化の蓄積など、他都市にはない「奈良の本質」をいかに活かせば、経済の好循環を実現できるのか。その可能性を議論します。



増村弘子
一般社団法人Next Commons Lab
ファウンダー



伊藤穰一
千葉工業大学 学長



仲川げん
奈良市長



林篤志
株式会社paramita 共同代表 /
一般社団法人Next Commons Lab
ファウンダー



増村弘子
一般社団法人Next Commons Lab
ファウンダー

テーマ③『文化発信』 日本文化の方法で、21世紀世界に貢献するために(会場:206)

日本は古来より自然と寄り添いながら暮らし、技術や美意識を育んできました。こうした文化的資産が持続可能な社会の実現に寄与する可能性は大きいと考えられます。奈良に眠々と息づく「古層」にある文化を、新たな価値観や方法論として世界へ発信していく意義を議論します。



増村弘子
一般社団法人Next Commons Lab
ファウンダー



伊藤穰一
千葉工業大学 学長



仲川げん
奈良市長



林篤志
株式会社paramita 共同代表 /
一般社団法人Next Commons Lab
ファウンダー



増村弘子
一般社団法人Next Commons Lab
ファウンダー

16:50-17:20 クロージングセッション(会場:203-204)

17:50-19:00 懇親会・ネットワーキング(会場:201)

オープニング（開会挨拶・イントロダクション）



開会挨拶

仲川 げん（奈良市長）



イントロダクション

林 篤志 氏

株式会社paramita 共同代表
一般社団法人Next Commons Lab ファウンダー



オープニングセッション

(オープニングスピーチ・オープニングディスカッション)

奈良会議
二〇二五

オープニングスピーチ

伊藤 穰一 氏 (千葉工業大学学長)



家入 一真 氏 (株式会社CAMPFIRE ファウンダー会長)



松田 法子 氏 (京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授)



オープニングセッション

(オープニングスピーチ・オープニングディスカッション)



オープニングディスカッション

『すでに存在する未来をどうたぐりよせるのか』

1,300年前に国家や文化の礎が築かれた奈良を舞台に、いま世界で起こっている大きな変化をスピーカーとともに新たに捉え直し、「すでに存在する未来」をたぐりよせるための奈良会議に通底する問いを探索しました。



家入一真氏

株式会社CAMPFIRE
ファウンダー会長



伊藤穰一氏

千葉工業大学 学長



松田法子氏

京都府立大学大学院
生命環境科学研究科 准教授



仲川げん

奈良市長



林篤志氏 (モデレーター)

株式会社paramita 共同代表 /
一般社団法人Next Commons
Labファウンダー



左から林氏、家入氏、伊藤氏、仲川市長、松田氏



会場の様子

パネルディスカッション(テーマI)

奈良会議
二〇二五

テーマI 新たな社会OS

『国家でもなく、従来型の民主主義でもない、自治の未来』

人類は民主主義や資本主義などの仕組みを育んできました。しかし、急速に進歩するデジタル技術が人々のつながりや集団の在り方を変え、新たな可能性と課題を同時に生み出しています。こうした変化の最前線から、新しい自治と共同体の在り方を議論しました。



家入一真氏

株式会社CAMPFIRE
ファウンダー会長



関 治之氏

一般社団法人コード・
フォー・ジャパン 代表理事



林篤志氏

株式会社paramita 共同代表 /
一般社団法人Next Commons
Labファウンダー



増村江利子氏 (モデレーター)

Webマガジン「greenz.jp」編集長
合同会社森に還す 共同代表



左から増村氏、家入氏、関氏、林氏



会場の様子

パネルディスカッション(テーマ2)

奈良会議
二〇二五

テーマ2 経済・産業

『低成長日本における好循環経済のデザイン』

大阪・関西万博が奈良の経済発展にとって大きなチャンスとなるとの期待が高まるなか、観光資源や地場産業、そして歴史文化の蓄積など、他都市にはない「奈良の本質」をいかに活かせば、経済の好循環を実現できるのか。その可能性を議論しました。



塩崎一裕氏

奈良先端科学技術大学院
大学長



出口哲也氏

ディライト株式会社
代表取締役



藤堂高明氏

cars株式会社
代表取締役執行役員兼CEO



中室牧子氏(モデレーター)

慶應義塾大学
総合政策学部 教授



左から中室氏、塩崎氏



左から出口氏、藤堂氏



会場の様子



左から中室氏、塩崎氏、出口氏、藤堂氏

パネルディスカッション(テーマ3)



テーマ3 文化発信

『日本文化の方法で、21世紀世界に貢献するために』

日本は古来より自然と寄り添いながら暮らし、技術や美意識を育んできました。こうした文化的資産が持続可能な社会の実現に寄与する可能性は大きいと考えられます。奈良に脈々と息づく「古層」にある文化を、新たな価値観や方法論として世界へ発信していく意義を議論しました。



高津尚志氏
IMD 北東アジア代表



舘鼻則孝氏
現代美術家



内藤栄氏
大阪市立美術館 館長
奈良国立博物館 名誉館員



安藤昭子氏(モデレーター)
株式会社編集工学研究所
代表取締役社長



左から安藤氏、高津氏、内藤氏、舘鼻氏



左から安藤氏、高津氏



左から内藤氏、舘鼻氏



会場の様子

クロージング



クロージングセッション

3つのパネルディスカッションのモデレーターが一堂に会し、議論の共有及び今後の社会・奈良に期待することを発信しました。

パネル1 モデレーター

パネル2 モデレーター

パネル3 モデレーター



増村江利子氏

Webマガジン「greenz.jp」編集長
合同会社森に還す 共同代表



中室牧子氏

慶應義塾大学
総合政策学部 教授



安藤昭子氏

株式会社編集工学研究所
代表取締役社長



仲川げん (モデレーター)

奈良市長



左から仲川市長、増村氏、中室氏、安藤氏



会場の様子



左から仲川市長、増村氏、中室氏、安藤氏

懇親会・ネットワーキング

奈良会議
二〇二五

懇親会

ネットワーキングを育む仕組みとして、会社員・公務員・自営業・学生など様々な年代・属性の方々にご参加いただき、懇親会を行いました。



会場の様子

懇親会后

終了後残ったお料理や飲み物は回収し、月ヶ瀬ワーケーションルーム「ONOONO」にある小型バイオ装置「MEGURU-BIO（めぐるビオ）」に投入し、バイオガスと液体肥料に分解、資源化しました。農業に活用するなど循環型社会の形成に取り組んでいます。



生ごみを資源化する小型バイオ装置（オンサイト型）。生成される液体肥料は家庭菜園、ガスは湯沸かし器に使用し、コーヒーの振る舞いなど住民同士の交流の仕掛けへ活用。

イラスト出典：アミタホールディングスHP

実際の様子



BIOに投入



液体肥料に



小型バイオ装置「MEGURU-BIO」